

### 第3回昇仙峡リバイバル会議

- 日 時 令和2年2月17日(月) 15時30分～17時00分
- 場 所 甲府市役所4階大会議室(防災対策室)
- 出席者 東徹委員、笹本健次委員、新井達司委員、志村忠良委員、芦澤卓夫委員、  
須山忠委員
- 欠席者 雨宮正英委員、内山しのぶ委員
- 委員以外の者 依田忠様、吉田均様、小笠原裕二様、小林明様
- 事務局 <甲府市>有賀観光商工室長、渡辺観光課長、田中歴史文化財課長、  
中澤観光課係長  
<甲斐市>大寫生涯学習課係長(飯沼生涯学習課長代理)  
<山梨県>山岸観光部次長、菊島観光部政策企画監

#### 次第

##### 1 議事

- (1) フィールドワークの報告について(立教大学)
- (2) フィールドワークの報告について(山梨県立大学)
- (3) 提案について(一般社団法人 山梨県造園建設業協会)
- (4) 昇仙峡リバイバルプラン(素案)について
- (5) その他

##### 2 事務連絡

##### 3 閉会

#### 【委員長】

今日は3回目ということでございますが、今日は12月のフィールドワークに参加した、立教大学そして山梨県立大学の学生からの提案があるということで、皆さんご期待いただきたいと思います。若者目線から見て、昇仙峡という観光地を歩いてみて、今後どんな楽しみ方ができるのかという提案がなされると思います。再三申し上げて参りましたが、この会議におけるいわゆるリバイバルというのは、かつての繁栄を取り戻すという意味ではなくて、次世代に向けて、甲府あるいは山梨の宝である昇仙峡をどうやって引き継いでいくのかということが大きなテーマであると考えています。そういう意味では一つはやはり次世代を担う若者たちが、昇仙峡をどう捉えているかというのは重要な視点であると思いますし、あるいは地元の方々が自分たちの宝物で

あるということを再認識していただくと同時に、それをどう活かすかということ在地元の主体性、イニチアティブのもとで推進していただきたい。そのきっかけづくりがこの会議だと思っています。これから提案があろうかと思いますが、皆様忌憚のないご意見をぜひいただきながら、この新しいリバイバルプランに向けた会議をして参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速、議事に入らせていただきます。最初に学生から2件、それから山梨県造園建設業協会様からのご提案を発表いただきまして、それからリバイバルプランの素案について事務局からご説明をいただくという次第になっております。それでは早速、学生諸君からの報告をしていただきたいと思います。まず立教大学から発表をお願いします。

### 【立教大学学生】

こんにちは。立教大学から提案をさせていただきます。よろしくお願いいたします。12月にフィールドワークに参加をさせていただいて、感じたこと、見たことなどを踏まえて、提案をして参りたいと思います。

今日の流れとしては、まず、歩いてみて感じた問題点を明らかにしたうえで、我々学生から、取り組みの提案をさせていただきます。まず現状の問題点として挙げられるのが、実際に昇仙峡の一番下のところから上流に向かって歩いたときに、歩きやすいとは言えない環境だなと感じました。具体的に言うと、自動車の往来が多く、そのたびに端によけないといけなところや、それから座る場所・休憩する場所が限られているというところで、下から歩くとする、もう少し環境の改善が必要なのではないかと思います。従って、座って休めるベンチの場所を増やす取り組みだとか、ウッドチップを敷いて高齢者や子ども連れにも配慮していくことが必要だと感じました。

そしてもう一つ挙げられるのが、飲食店の数が少ないと感じたということです。滝の上、ロープウェイの入口のところに飲食店が集中していて、下のほうから歩いていくと、上に行くまでの途中で食事をできる場所が少ない。店舗数自体も少ないと感じたので、もう少し強化できたら良いのではないかと思います。もう一つ、道中の解説が少ないというのがございまして、岩の名前を示す看板は設置されているのですが、細かい解説が書いてあるものが少ないと感じました。ですので、ボランティアとかガイドによるツアーを行うのもよいのではないのでしょうか。とくに天鼓林はガイドさんがいないと楽しめないと思います。ただ、看板をやみくもに設置してしまうと景観とのバランスが崩れてしまうということも考えられますので、QRコードを活用して、スマートフォンを利用したガイドを使うなどが考えられます。最後に、仙娥滝のところにある急な階段は、高齢者や足腰の不自由な方にとっては負担になるのではないかと考えたのですが、これはエレベーターをつくるわけにはいかないと思いますので、解決は厳しいのかなと感じました。

以上のような現状を踏まえた上で、私たちの提案は、「歩くこと」そのものを楽しむということをコンセプトに考えました。歩くための環境を整備し、そして歩くことを楽しめるような取り組みを、我々で企画して行っていく。まず1つ目の取組として、川沿いに岩がいくつか見えるのですが、その岩に観光客自身が名前をつけるという取り組みを提案したいと思います。昇仙峡を訪れた観光客が、川沿いに見える岩に対して、自分で「あれは何岩だ」というかたちで名前を付けていくよう

な取り組みを実施する。そして岩の写真と名前、理由を観光協会宛に送っていただく。その後観光協会で、審査を行っていただき、採用されたら1年間その名前で岩が呼ばれるというような取り組みを考えました。この岩の名前は、ロープウェイのところや影絵の森美術館などの施設に掲示するか、あるいはQRコードを用いて紹介するという方法が考えられます。

2つ目の提案はフォトハンティングの実施です。フォトハンティングというのは、見本の写真があって、それと同じ写真を観光客自身が撮影しながら、設定されたゴールに向かうというイベント・アクティビティです。例えば、岩や吊橋、お寺というようなそれぞれの写真にポイントを付けて、その写真を撮影するたびにポイントがもらえるというようなシステムです。そのポイントに応じて、滝の上の飲食店などで使えるクーポンと引き換えるということを考えました。「100点以上で〇〇円分のクーポン」というようなかたちで、活用することができます。それから時間を競うタイムレースというかたちで楽しむというようなものも考えられます。これは若者だとか女子、家族のように層によってイベントを分けて開催するというのも良いと思います。実際にある既存の取組として、山梨県山中湖で同じような取り組みが、大学生主導で行われています。そのパンフレットには、写真を撮ると何点というようなコメントが書いてあって、それと同じように写真を撮ると点数がもらえる。そしてトータルの点数を競うやり方や、これらの写真を撮ったタイムを競うというようなものがあります。こうした取り組みによってクーポン等を利用して、飲食店と連携して盛り上げていくことができます。実施する場合、写真とルートの選定やパンフレットの作成などは、学生が継続して昇仙峡という観光地に関わることができるという利点があります。

私からの発表は以上になります。ありがとうございました。

### 【委員長】

ありがとうございました。学生の発表に対するご意見については2大学の発表後にまとめて伺いたいと思います。それでは続きまして、山梨県立大学お願いします。

### 【山梨県立大学学生】

皆さんこんにちは。本日はよろしくお願いいいたします。

はじめに、こちらが私たちの配布した資料となっております。ご確認ください。この資料は2種類入っております、1つ目は本日私が利用しますパワーポイントの資料となっております。また、パワーポイントの最後には当日の新聞記事も載っておりますのでぜひご覧ください。また、もう1つの資料は私たちが実際に作成した報告書となっております。はじめのほうに報告書のまとめが載っております、その次に参加した学生の報告書の原文がそのまま載っております。この15分の発表では伝えきれない内容が詰まっておりますので、ぜひこちらもご覧ください。よろしくお願いいいたします。

さて、こちらの風景はどこで撮ったかわかりますか。実はこれ、昇仙峡の展望台の場所で撮った写真なのです。あまりにきれいに撮れたので、表紙に利用させていただきました。

こちらが私が本日発表します目次となっております。本日の内容の流れとしましては、はじめにフィールドワークの様子を少し紹介しまして、その次にこのフィールドワークに基づいた提案をさせ

ていただきます。フィールドワークを終えて、SWOT分析をしまして、そこから導き出されたコンセプトについてご紹介させていただきます。そして最後に、もう一つの提案をさせていただきます、まとめとなります。

それでは、こちらが実際にフィールドワークで撮った画像になります。当日はとても天気が良く、空気も澄んでいて、これ以上ないといつていいほど最善の状態フィールドワークに臨むことができました。実際に、岩肌もとてもきれいで、富士山も遠くまで見ることができ、絶好のフィールドワーク日和でした。しかし、私たちが気になる点がございまして、1つ目は不法投棄やコインを差すといった観光公害が気になりました。特にこのコインを差す行為に関しては、岩にコインを差すことでひびが入ってしまい、このひびから水が入ると、岩が崩れる危険性があるため、観光客の方々にも被害が及ぶ可能性があります。そして弥勒菩薩といわれる、中国人の観光客の方々に好まれる菩薩なのですが、実はもともと昇仙峡にあったものではないのです。おそらく中国人観光客向けにつくられたものが、昇仙峡に基づいたものと勘違いされているように思います。このように様々な種類のパワースポットがあったのですが、多くは歴史的根拠のないものが多く、統一性がないといった問題がありました。それを踏まえた上で、提案としまして、ユニバーサルデザイン化の促進をするのはいかがでしょうか。具体的にはピクトグラムや誘導表記の増設です。こちらは実際にフィールドワークで撮った写真なのですが、このように比較的新しいトイレにはこういったピクトグラムが設置されていたのですが、まだまだ多いとは言えないのが現状でした。そこで、こちら、私たちが実際につくったピクトグラムなのですが、はじめにこちらは政府がつくったペット持込み禁止のピクトグラム、JIS規格Z8210に基づいたものとなっております。こちらは国際規格ISO7001を使用しています。このようにピクトグラム表記であれば比較的安価に、そして様々な人々にとって価値のある行為だと思います。こちらは実際に信玄ミュージアムに私たちが設置したものにののですが、ご要望があれば、昇仙峡でもおつくりすることができます。

そして提案の2つ目が、地域の歴史に根差した商品の開発をしてはいかがでしょうかということです。私たちが実際にフィールドワークに行つて気になったのが、商店街の統一性のなさということです。そこで、こちらはカフェテロワールで撮った写真なのですが、よく見ると甲州地鶏や昇仙峡で採れたわらびを使用していて、県内の地域資源を利用したメニューを多く取り扱っていました。またベジタリアン向けの商品も開発していて、様々な人に楽しんでもらえるという工夫がなされており、非常に良いお店だという感想を持ちました。実際に食べたカレーも美味しかったです。私たちはフィールドワークを終えて、SWOT分析を行いました。このSWOT分析は昇仙峡の現在と昇仙峡の未来の時間軸に分けて分析を行いました。この分析を通じて、私たちがたどりついたコンセプトは「大昇仙峡拡張計画」というものです。このコンセプトを通じて私たちが提案したいことは、もう少し広い視野を持ってみてはどうでしょうかということです。観光客を増やすのも大事だとは思いますが、私たちは昇仙峡を守る人が増えてほしいと願っております。パワースポットや統一性のない商店街などは観光業者の方々が目先の利益を求めたからこそ、起こってしまったことではないでしょうか。今だけでなく、どのようにして昇仙峡が守られてきたのかという昇仙峡の過去、そしてこれからどのようにして守っていくのかという昇仙峡の未来。広い視野でこれからの昇仙峡を見ていきたいと考えています。時間的に長く見るだけでなく、地域的に広く見ること

も提案したいと思います。これらのコンセプトに基づいて出された提案がこちらになります。ルートの多様化を提案したいと思います。未来をつかってどう広げるのか、過去をつかってどう広げるのかということですが、具体的には、昇仙峡の未来というのはユネスコエコパークをつかって表現し、昇仙峡の過去は昇仙峡の伝統・歴史をつかって表現したいと思っております。現在の昇仙峡は団体客向けになっておりますが、ユネスコエコパークや修験道を使って新しくルートを開発することで、選択の幅を広げ、個人観光客向けにするのはどうでしょうか。そしてこれは実際に、ある人が歩いた道となっております。こちら半分に分けて、右側が祈りの道になっておりますが、これはつまり祈りの道は歩けるといことです。こちらが従来の昇仙峡のルートとなっておりますが、こことは少し外れた地点にあるため、今の昇仙峡よりも地域的に広く観光客に楽しんでいただくことができます。そしてこちらをご覧ください。この道はすごく急で、でこぼこしていて、普通の観光客の方々はここを歩けるといいますか。観光客が歩けるようにするには、整備をする必要があるのではないのでしょうか。またこちらの羅漢寺の奥は修験道にある祈りの場となっております。こちらは、三ノ獄と呼ばれております。今は道が分断されていて、歩きづらい状況となっております。またこちらはユネスコエコパークの核心エリアとなっております。ここでこちらの水をご覧ください。これはモンドセレクションで金賞を受賞した水となっております。この水はこちらから採られています。ここでこういった手つかずの自然、良いままで残されている自然をエコツーリズムやESDという持続可能な発展のための教育に利用することで、昇仙峡を守る人々という、次世代の人材の教育に使うのはどうでしょうか。そしてこちらが実際に金櫻神社にある掛け軸で、ニホンオオカミなのですけれども、山で恐れられている存在ということで信仰にまつわるものとなります。そしてこちらは金櫻神社の奥になります。こちらは昭和初期のまま残されていて、まるで映画のセットのようだと思いませんか。今このセットたちは朽ちていくのを待つのみとなっております。保存しなければ、このままなくなってしまうかもしれません。もったいないと思いませんか。ここでまとめまして、「昇仙峡を誇れる場所にしたい。」これが私たちの一番の目標です。そして中心部だけでなく、周辺の地域の活用もしてほしいと考えております。また現在だけでなく過去、そして未来に目を向けてほしいというのが私たちの願いです。私たちの提案は新しいものをつくるのではなく、従来あるものを利用するというところに重点を置いています。昇仙峡のエリアの拡大、そして多様なルートをつくる。その結果、個人観光客にも好まれる、個人観光客をもっと増やすというのが私たちの提案です。ご清聴ありがとうございました。

#### 【委員長】

ありがとうございました。それでは今の発表を受けて、皆様の意見を頂戴したいと思います。

#### 【委員】

私もフィールドワークのときにいたのですけれども、両大学から結構厳しい意見が出されております。私たちは30年以上携わっていて、いろいろ気づかない部分を気づかされたり、これは若い人の感覚だなと感じられる部分もあるのですけれども、県立大学の話は、よく分かりまして、昔、信仰の山だったと昇仙峡は言われているので、それをもう一度世に出してやっていくというのは

良い手かと思えます。それをやはり学術的にやるのか、それとも観光的にやるのかという2つに分かれてくると思うのですけれども、それをうまく今風に、物語として作り上げるのがいいのかなと感じました。また立教大学の意見というのは、長潭橋からロープウェイしか見ていないので、金櫻神社などは分からないかと思えますが、1回来た学生さんたちが思うことが、本音だと思います。県立大学の皆さんは何回か訪れていると思うのですけれども、やっぱり私たちからすると、県立大学の学生さんたちはよく見ているなとつくづく感じました。昇仙峡の今後ですけれども、やはりこういう人たちの意見を聞きながら、過去を振り返らない。新しいことを目指していくというところで、古い文化というものを世に出して、新たな昇仙峡づくりをしていきたいというのがあります。

#### 【委員長】

ありがとうございます。それでは続いてお願いします。

#### 【委員】

今お話をお聞きしまして、耳が痛い部分がありまして、我々昇仙峡で携わってきている人たちは、やはり自分たちが毎日食べていくための糧として仕事をしているので、今までのやり方は利益を求めていくということを優先的にやってきた。これは商売をやっているところであれば、必ずそうだと思います。ただ学生さんたちの話を聞きまして、そういうことだけに囚われてはいけない、そういう部分を感じました。とくに目先の利益だけを追及するという事は非常に大事なことですけれども、そこばかりをやってきたから今の昇仙峡の実態があるというのもまた一つの事実であります。そういう部分で、学生さんたちの意見を取り入れて改善していくかたちをとっていかないと、将来の昇仙峡はないのではないかとつくづく感じました。以上です。

#### 【委員長】

まさに持続可能と今言われるわけですがけれども、次世代に向けて、大切な遺産・財産をどのように使っていくのか。まさに今おっしゃるように、事業者にとって経済的な利益は最も大事なわけけれども、ただそれだけを追い求めてしまうと、例えば歴史性が失われるとか、あるいは、実は非常に素晴らしい自然環境なのだけれども、それをどの程度分かって楽しめるのかというのが、欠落してきたのではないかと。耳が痛い方は多々いらっしゃるかもしれないですけれども、いわゆる今のようなかたちになってしまったのは、もちろん事業者の利益追求のためもあるでしょうけれども、一方で旅行業に依存しすぎた、つまり日帰りバスツアーで連れてきて、昇仙峡の滞在時間は1時間ですよとかたちのツアーに依存しすぎたということもある。つまり、楽しみたくても楽しめない人たちがわんさか出たという現状はやっぱり認めなければいけない。知らないでしょというが、知りようがないのですよ、要するに。バスが停まっている時間内、駐車場に1時間後には帰ってこないといけないわけですから。2時間といっても、たかが2時間。一部と言われるけれども、橋から滝までゆっくり歩けば2時間かかるわけですよ。それすらもできない。もっと良いところがいっぱいあって、もっと見てほしいと言われても、今のツアーの現状では、まったく見る時間がない。せいぜい何か食べてお土産買って、一番良い滝の風景を撮って帰っちゃおうという感じ。そういう

意味では、もっと深く理解しようというのが両チームの考え方だと思います。隠れたところがまだあるというのを、委員が今おっしゃるように、教育的あるいは歴史を学ぶ、環境を学ぶという視点でとらえていくのか、あるいはもっと観光的に学び、知っていくのかというところで、ちょっとした違いが出てくるので、観光商品化するという場合に、個人向けの歩く楽しさと同時に教育旅行としての楽しさというのを商品化していくと違ってくるのかなと思います。そういった意味ではターゲットとテーマというのが、大事になってくると思います。それでは続いてお願いします。

### 【委員】

なかなか厳しい意見が多かったですけれども、現状は見せなければならぬところが見せられていない。観光バスであろうとも、個人であろうとも、昇仙峡の魅力を伝えるためにどうかたちで誘致するか、そこを見てもらえるか、というのが非常に大事だと思います。範囲を拡大して、例えば仙娥滝から15～20分下に降りてもらおうと、長田円右衛門の石碑があつて、石門があつて、川沿いを歩くと素晴らしい景色が広がっているけれど、今は滝を見て戻ってきてしまう。個人のお客様にしてみれば、それがもったいない。まずは、滝から15～20分下に降りてください、素晴らしいところがありますよ、というのをみんなでプレゼンしていく。階段の話もありましたが、力学的なことはわかりませんが、もう一回設置の仕方を考えてみても良いと思います。100段ある階段の3段を1段にしてスロープ階段のように緩やかになれば、もっと下まで行ける。

もう一つは、ビジネスだけではなくておもてなしという日本の考え方がある。ビジネス+おもてなしということなのです。ビジネスからおもてなしがなくなったらどうなるのかということなのです。理由はたくさんありますけれども、あれだけたくさん来ていたお客さんたちに対して、おもてなしの心がどれだけあつたか。要するにしかけが大事です。どのようにお客さんと呼んで、お客さんを楽しませるか。時間の作り方というのを、リピーターを増やすためにも、もう一度考えてみるべきではないか。

### 【委員長】

スローモバイルみたいな形で環境にやさしい移送手段というのを考えるというご提案もあつたので、まあお金はかかることですが。そういう考え方もありだと思いますし、これから高齢化していくなかでどうやってきつい階段の負担をなくしていくか、それからやっぱり休めるということ。休みながらゆっくり歩けること。時間の制約もそうですし、実際に歩きやすさや休める場所、あるいは、なにか食べられるというような、歩くコースとしての整備。その楽しませ方、もてなし方という意味で、よくこういう類の話をしていると、「ありのままを」というワードが出ますが、ありのままになんて見せられない。人はなにかの先入観を持って物を見ているので、認識しているので、ありのままなんて見られない。ましてや、ありのままの観光地なんて楽しくもなんともないわけですよ。そこはまさに事業者の方のもてなしであつたり、意味づけですよ。つまり、ここはただの山道でない、信仰の道なのだと思えたときに、険しさが楽しさに変わったり、意味づけで変わっていく。ここを修験者が渡つたのかなあと思いつきながら歩くと、全く意味が変わってくる。楽しみ方そのものが変わってくる。そういう意味では信仰というテーマだとかエコというテーマだとかエピソードを知りながら

歩くという、楽しみ方の提案というのが必要ですよ。とくに個人客にとっては時間制約のない楽しみ方というのが提案として良い。では続いてお願いします。

### 【委員】

2人の学生さんたちに発表してもらったのですが、観光資源に意味を与えるソフトのようなものを、ということで、立教大学のフォトハンティングというお話ですとか、県立大学の信仰の道のようなものは広がりを持たせるということでよいと思う。今の信仰の道というところは、すでにパワースポットという意味が強いので、「パワースポット」と「信仰」という2つのキーワードはある程度親和性があるかなとか。あるいは遥か遠くに富士山を臨める「遥拝」という信仰の仕方もあるなと思って、何かソフトで昇仙峡に意味を与えていくという方針は間違いないと思う。ただ何から始めるかというのが難しいところだなと感じました。以上です。

### 【委員長】

意味を与える、楽しみ方を提案するということですよ。ハード整備となるとお金のかかることで、階段の見直しということもあるし、遊歩道の整備という意味ではハードウェアですけれども大胆なハードウェアではなかったという意味では、楽しみ方の提案やソフトウェアの提案が大事になってくる。昇仙峡はきれいでしょというだけで果たしてお客様は楽しめるのか。景色だけでいいのか、意味を消費しながら信仰の道として歩いたときの楽しみ方と、単純に紅葉だけを見て歩くというのは意味が変わってくるだろう。そういう意味では季節あるいは客層にあわせて意味づけを提案していく。ただきれいな岩や溪流があるだけじゃないよ、あるいは富士山が見えるだけじゃないよっていう。ただ意味づけをうっかりするとパワースポット、先程、県立大の学生さんのプレゼンの中で批判されていましたように、なんでも良いとうわけではない。つまり歴史的根拠もなにもないものがあっても、良いものではないよとを感じるのも事実。その辺が、お客さんに教育的な意味・学術的な意味とか、より本物を楽しんでもらうかという視点とどう共存させるかというのが難しい課題だとは思いますね。

### 【委員】

両大学の皆さんの話で一番感じたことは、我々が日常に怠けていて、目の前のことしか考えていないということ。学生さんの発表を聞いて、まさに我々に足りないものを指摘されたのかなと思います。というのは、明日を見るのではなくて、1年先、5年先、10年先をみてということをお校ともおっしゃっていたのではないかなと。その日暮らしになると、例えば実際にお土産屋さんにしても、今日1日の売上げが欲しいということで、来たお客さんに客引きをしたり、いろいろなことで嫌な思いをさせてしまうことがある。やっぱり商店街の統一化がされてなくてバラバラであるとか。これから観光バスに大量にきてもらって、そういうことの繰り返しをやっていたらだめだなと。皆さんの意見の通り、渓谷をしっかり歩いてもらって、時間をかけて昇仙峡を見てもらう。その中にはもちろん、昔からの修験道にしても何にしても、見る場所はいっぱいあるので、そういったところをまずは開発していかなければならない、もう一度見直さなければならぬ。そのためには今までの、

来て1時間で終わって、はい次のところへ行きましょう、という考え方をまず変える。昇仙峡に長く滞在してもらって、昇仙峡の良さを感じるという観光の在り方にどうやって変えていけるか、ということは今ここできっちり議論して、続けていくことが一番大事でないかなと思います。

### 【委員長】

そうですね、皆さんのお話を聞くと、滞在時間というところに大きな問題意識がありまして、両学生もそうですが、もっとゆっくり見て、楽しんだらどうですかという部分では共通していた。やはり旅行商品化された昇仙峡があまりにも時間節約的であると。まさに日帰りで新宿まで帰るのにジュエリーも見なければいけない、ほうとうも食べなければいけない、ワイナリーも行かなくてはいけない。挙句の果てには漬物工場まで連れて行かれたよというように、実際に昇仙峡には1時間しかいられないというのがだいたいのツアーのかたちである。それについてはみなさんに言うようにもっとゆっくり楽しむということが1つのテーマであると思います。そのためにはどういう側面を用意するのか、どういう楽しみ方を提案するのか、というのが非常に重要。ゆっくり歩くというのが大きなテーマだと思うし、どちらかというゆっくり楽しむということにウエイトを置いたら、というのが立教大学の方で、どちらかというオーセンティックな意味をもっと見直せというのが県立大学だったかなという印象。もっとゆっくり楽しむ、歩くことを楽しむには、何をすべきだろうか。歩く楽しさ、時間を費やすことの楽しさをどうやってつくっていけるかが、今回の皆様のご意見や提案だったのかなと思う。

それでは続きまして3つ目の提案でございます。

山梨県造園建設業協会の方からご提案をいただきたいと思います。

### 【山梨県造園建設業協会】

それではお手持ちの資料について説明をさせていただきますけれども、その前にまず協会の説明、資料作成にあたっての要旨を説明させていただきますと思います。まず初めに造園協会の説明をさせていただきます。一般的に造園といえますと庭をつくったり道路や木に手を入れたりということを連想される方が多いと思います。確かに庭木の手入れも行いますが、当協会の会員は道路の街路樹の植栽、剪定の維持管理、都市公園の樹木の植栽や植えられた木の維持管理も行います。近年、都市公園の管理は指定管理者制度に変わったことから、会員企業の中には大規模公園の指定管理者として都市公園の管理を担っている者もおります。当協会としましては、社会貢献事業としまして、環境保全や都市緑化事業の支援、普及啓発活動をおこなっております。具体的に言いますと山梨市・甲州市で広域的な機能を持った森林を再生する里山整備事業の技術的支援や、大学生と連携して、良好な景観を提案する山梨未来プロジェクトなどを行っています。それでは今回の昇仙峡リバイバル会議では、日頃都市公園などを管理している視点から2点ほど提案をさせていただきます。

まず、1点目として景観の視点から挙げさせていただきます。昇仙峡は昔から溪谷が美しいと言われており、長潭橋や夢の松島から見える溪谷・松・岩山の景観、すなわち遠くの景観は確かに見応えがあります。しかし、夢の松島の周辺の近場の景色は良好ではないと感じました。例えば、

御影石や手すりの周辺には弦や蔦が繁茂し観光客が容易に近づけない様子で景観を損ねています。また、観光客が写真を撮る際、そういった眺望を損ねる樹木を避けて写真撮影を行っているのではないかと思います。それでは眺望ポイントとしては適切でないと思います。眺望の支障になっている枝の剪定など、伐採を行うとともに、弦、蔦などの整備をし、眺望ポイントとして夢の松島の再整備をするとともにその状態を維持することが重要かと思えます。2つ目の要旨として、来訪者の視点から意見を言わせていただきます。私たちは日ごろ、都市公園を維持管理するにあたって、安心安全に利用していただくこと、楽しんでいただくこと、ほっとできる良好な環境を提供することを心掛けています。都市公園の利用は、平日休日で利用される方々が異なり、利用形態もウォーキングやジョギングなど体を動かすことを目的としたり、子供たちの遊び場として利用したり、のんびりゆったりと特に目的もなく時間を過ごしたり、その他イベントに参加したりと多岐にわたります。そうしたいろいろな利用者のために、オープンスペースとなる芝生広場や樹木が植えられた範囲での緑の囲まれた空間を、心地よく利用していただけるように維持管理に努めています。近年、良好な景観・管理の行き届いた緑あふれる環境整備がなされた公園などが身近にある利用者が、馬車道を散策して天鼓林で休憩するときどう感じるのか。あるがままの自然なのですかという人もいますが、管理の行き届いていないみやげ店や、苔・カビ発生している施設があり、山肌には倒木がおかれ朽ちかけている状態。こうした状態を見て心地よく感じる人は少ないと思います。すべてを解消することは難しいですが、少なくとも眺望ポイントや休憩ポイントがある夢の松島や天鼓林を利用して心地よい空間、のんびりゆったりと思えるような空間をつくる必要があるかと思えます。その場所でお茶を飲んだり軽食をとったり、また荒川の河原で水遊びができ、1～2時間程度滞在できるような空間づくりが、「楽しかった」という満足感や「また来てみたい」という動機づけにつながると考えています。昇仙峡の賑わいの創出については、まず近くの甲府市民、甲斐市民。例えば3時間あるから昇仙峡に行って散策でもしてみようと思わせるような環境づくりが必要かと思えます。そのためには眺望ポイントや休憩できる場所の再整備が必要となります。それでは、お手元の資料をもとに説明させていただきます。まず2ページ目をご覧ください。長瀬橋から上流の溪谷をみまわした景観です。良好な溪谷美を左側の木が繁茂し荒川の水源が見えなくなってしまう。繁茂した木を整備し景観美がより見えるような環境整備を提案します。つづきまして4、5ページ。天鼓林についての印象ですが、枯損木や下草が繁茂しているので、鬱蒼とした感じを払しょくすることが重要かと思えます。枯損木の撤去や下草刈りをして心地よく感じさせる空間が必要かと思えます。資料の写真は枯損木を撤去した際のビフォーアフターの状況であります。撤去後は鬱蒼とした状況は解消されたと思えます。また下草刈りを実施し、水辺まで誘導路を整備することで水と触れ合うことができ、休憩施設の整備を行うことで心地良い空間が創出できると思えます。つづきまして6ページ。馬車道から天鼓林へのアプローチの道路の整備が不十分なため、しっかりとした誘導路の整備が必要かと思えます。ここでも上下の写真で、整備のビフォーアフターを作成しています。天鼓林内の誘導路の整備、階段等の設置、天鼓林の由来「太鼓のように響く地面」を記した案内板などの設置により、名所の魅力を伝えます。こういった整備を行い、来訪者を天鼓林へ積極的に誘導することを提案します。続いて7ページ、夢の松島周辺となります。8ページをご覧ください。眺望ポイントとしてふ

さわしくない樹木が放置されている状況です。すみやかに伐採して良好な景観を保つ必要があります。続いて9ページ。先ほどお話したとおり、この周辺の景観整備が不十分であり、またある程度の時間、この場所で滞留できる空間づくり、例えばお茶を飲んだり水遊びをしたり休憩できる場所が必要と考えます。そのために一定の広さが必要となり、他の来訪者との適度な距離感を保てる空間が必要と考えます。9ページは、御影石をクラッシュランした碎石を敷き詰め、休憩場所として整備したイメージです。10ページは散策路の整備を行い、荒川の水辺空間へ誘導するアプローチ整備でのビフォーアフターであります。11ページをご覧ください。近景としては、荒川の氾濫によって流れてきた巨石が、本来は良好な景観のアクセントになるべきでありますけれども、逆に弦や蔦が繁茂し、景観的にマイナスになっているイメージです。こうした状況を解消し、近景の修景を図っていくことが、必要だと思います。以上で長潭橋・天鼓林・夢の松島の景観整備について説明を終わらせていただきます。

**【委員長】**

ありがとうございました。今のご提案に対してご質問ございますか。

**【委員】**

代表的な地点だけだと思うが、ぜひやっていただきたいと思う。予算はどのくらいかかるのか。

**【委員】**

消費税を含め4,000万円くらい。

**【委員】**

リバイバルプランというのだから大きなお金がかかるとは思っていましたが、結構高いですね。

**【委員】**

4月のミツバつつじの群生地や、紅葉の時期になりますと紅葉が非常にきれい。また松の木は身長があるのも特徴。どれも素晴らしい景観なので、ぜひ整備を進めていただきたい。

**【委員長】**

歩きやすさと同時に景観を楽しみやすい。プラスお金をかける。少なくともご提案があったように、人が集まりやすいところを優先的にやりながらで、確かに川に降りられるところや吊り橋といろいろ言ってしまうと、どんどん膨らんでいくのですけれども、順次というかたちで。人が集まりやすい所を優先的に。自然といっても、実は手を入れないと楽しめないというのが大前提で、自然を感じさせつつ、実は人の手が入って歩きやすく、楽しみやすくなっているのが観光地。そういう意味でも4,000万~5,000万円かけても整備をしていく価値はある。その辺は予算の関係になるので、事務局でご検討いただきたいと思います。その他、よろしいですか。

**【委員】**

トテ馬車が復活ということで200万円程補助金がついた。トテ馬車を昔からやっていた人の息子さんが、今度始めると新聞に出ていて、今度その業者に確か補助金が出たのですよ。本当に最近の話です。そうすると具体的にトテ馬車を復活させることになるはずですよ。

**【委員】**

個人にも出たのですか。甲府市からの補助金ですか？

**【委員】**

それは個人のようです。はっきりとは分かりませんが、出ましたよという話は聞きました。

**【委員長】**

馬車が復活すると、馬車をどう活かすかという話になりますが、それこそ歩くだけではない観光というのも考えていけるかと思えます。

それでは3つのご提案をいただいたところで、次に、「(4)昇仙峡リバイバルプラン(素案)について」事務局から説明をお願いしたいと思います。

**【事務局】**

議題(4)「昇仙峡リバイバルプラン(素案)について」説明

**【委員長】**

ありがとうございました。それではリバイバルプランの素案につきまして、皆様からご質問、ご意見あれば頂戴したいと存じます。

**【委員】**

進捗状況の検証について、全体としては、スピード感がないのではないかと思います。リバイバルプランの目標に向けて、観光客を増やしていくには、観光客入込客数が4年経って2%アップでは寂しいと感じる。もう少しお金をかけてスピードアップしないと効果的ではないのではないかと。できるだけまとまったお金を投入して明確な効果を出すことが必要だと思う。ダラダラとやっていると目に見える効果はないのではないかと。スピード感をもってやっていただきたい。それと第2次、第3次の甲府市観光振興基本計画は、誰がどのように作っているのでしょうか。

**【事務局】**

甲府市の観光振興基本計画について説明させていただきます。甲府市総合計画がありまして、その下にそれぞれ、様々な部署で事業を行う中で、観光課としては甲府市観光振興基本計画というのをつくって様々な施策を展開しているところでございます。この第2次観光振興基本計画につきましては、平成27年3月に策定をしています。27年度から31年度までの5年間という形で

様々な事業を展開してきたところで、今年の令和元年度が最終年度でございますが、本来ならば今年度策定をして、令和2年度からはじまる計画とすべきところ、この観光振興基本計画をつくるにあたり、日本遺産への申請や昇仙峡リバイバルプランの策定などがありましたので、本来は今年度策定のところ1年間延長させていただきまして、日本遺産の認定の具合とリバイバルプランの内容を反映したものを令和2年度につくりまして、令和3年度を初年度とする観光振興基本計画をつくる予定でございます。

**【委員】**

そもそも第2次観光振興基本計画というのは27年度に出ているのですね。

**【事務局】**

そうですね、平成27年3月に策定しておりまして、27年度から31年度までのものです。

**【委員】**

私は見たことがないのですが。誰がどう決めているのかさっぱりわからない。

**【事務局】**

第2次甲府市観光振興基本計画を策定するにあたって、委員になっていただいたのは山梨県立大学の吉田先生、甲府市観光協会会長、商工会議所副会頭、交通関係として山梨交通専務取締役、中小企業団体中央会、昇仙峡観光協会会長、商店街連盟、JTB甲府支店支店長、甲府ホテル旅館協同組合副理事長、県観光部の課長に入っている。

**【委員】**

湯村温泉旅館協同組合は入っていないのですね。だから私は知らない。なかなか冷たいですね。観光行政には偏りがあって非常に不満です。こんな偏りがあってはたまったものではないです。湯村温泉は信玄公のゆかりの温泉なのに無視するのですか。おかしいですよ。今回は必ず入れてください。

**【委員長】**

それはまた別件でございますので、今のご要望も取り入れていただきたいと存じます。その他よろしいですか。だいぶ時間が押しておりますが。

**【委員】**

これだけものを作っていただいて、昇仙峡リバイバルプランの理念の目標ということで、「観光客が訪れたい昇仙峡」とありますが、この名の通りできれば昇仙峡の復活も夢ではないのかな。いろいろアンケートとかを見てみてもそういうことだよな、と思うしかないの、前に進んでいくしかないのかな、と思います。できることを1つでも2つでもやっていくというのが現実だと思います。

### 【委員長】

スピード感を持って、予算を投入するというご意見もあるようですので、ある程度タイムスケジュールをみながら、できることを着々と進めていくと。つまりある意味では重点的に、その辺にはお金をかけようとか、歩く環境や休む環境の整備を早くやろうとか、メリハリを予算付けと同時にやる。最後の、体制づくりも進むうえでは大切だと思っておりまして、基本的にはプランをつくるためだけの委員会ではなくて、継続的に、昇仙峡にかかわっている人たちが昇仙峡をどう良くしていきたいのかということを常に話し合い、進めていくための体制づくりというのが望まれるのかなと思います。ぜひ次世代を担う方たちが昇仙峡をどのようにしていきたいのかというのを考えるワーキンググループなどを設置していただいて進めていただきたいと思います。オブザーバーの皆様からもお願いします。

### 【委員以外の者】

それでは一言だけ。実施体制についてお願いがあります。協議会は地元の方々に構成されるべきだと思いますが、外部協力団体は地元には絞る必要はないと思います。例えば、大学に関して、「地元の大学」と書かれています、「地元」とつける必要はないのではないかと思います。観光計画は地元の人たちを中心につくってきました。それで成果がでないのであれば、やはりもっと幅広く、いろいろな方々の意見を聞く体制が必要だと思います。特に大学に関しては、昇仙峡はユネスコの指定になりましたので、国内の大学だけでなく、ユネスコチェアを通じて海外の一流大学を引っ張り込むことも可能です。従って外部団体に関しましてはあえて地元と書かずに、外に出すかたちで組織を作った方が良いと思います。今日の立教大学の話を聞いていても、そう思いました。もし取り込むことができれば、実際にご提案いただいたことをやっていただく。それに賛同する地元の方もいると思います。とても素晴らしい提案でしたので、外部も入れられるような形にするのが一番だと思います。以上です。

### 【委員長】

ありがとうございます。先ほどフォトハンティングの話も出ましたけれども、山中湖でサンプルとして出したものですが、あれは実は夏休みに学生が、山中湖DMOに行ってつくったもので、もし昇仙峡で実現する場合だと、山梨県立大学の皆さんと、我々立教大学の学生と共同作成というかたちでパンフレットやガイドブックをつくるという形で関わりあえるかなと思うので、ぜひ実現をさせていただければと思います。それでは続いてお願いいたします。

### 【委員以外の者】

私も一言。議論の中で課題が抽出されて、そのための施策として、リバイバルプランが策定される。大事なのはこれから持続可能にやっていく、継続してやっていく、実行していくということだと思います。私はこの実施体制が非常に大事だと思っております。私は金融機関の人間でございますので、ここから、検証しながら、実行しながら、また私どものこともいろいろ結びつけていく中で、お役に立てることもあると思います。本当にここからやっていきたいと思っておりますので、よ

ろしくお願いします。

#### 【委員長】

ありがとうございます。それでは最後にその他ですが、何かご意見ある方はお願いします。

#### 【委員】

間接的なものではありませんが、湯村温泉旅館協同組合が主催のもので、4か国、オーストラリア・タイ・中国・マレーシア、それから、静岡・長野から呼んで、シニアのサッカー大会をやっています。そしてそのアトラクションとして必ず昇仙峡に連れていく。2年継続していてMICEの参加人数も140名となっています。極めて具体的な話になってしましますが、ぜひこれは継続してやるべきことだと思う。2回やっていて外国の皆さんにも非常に評判が良い。あとはファンディングの問題。もう基礎ができていて、ここで辞めては全然だめ。昇仙峡の入り口である、湯村温泉郷でもありますし、旅行会社とも交渉をしつつ、せっかく定着している事業もありますので、ご協力いただけると幸いです。

#### 【委員】

それに付け加えますと、開府500年事業のレガシーとして残すべき事業の1つだと思う。もし成長すれば全国に名だたる国際シニアサッカー大会に成りうるが甲府市は全く無理解。予算措置も一切なしということで、経済産業省の補助金を使わせていただいております。現在、市と交渉しておりますけれども、入湯税も問題になっていて、入湯税は源泉の保護に使うべきで、湯村温泉のために使うべきなのに、実際には一般財源に入っていて、徴収手数料すらもらっていないのが現状。この辺を予算化して、ぜひ甲府市に貢献する事業に入れていただきたい。そうすれば昇仙峡にも必ず効果がある。また今年4年目になりますけれども、昇仙峡のライトアップにあわせて、湯村温泉からバスを1台出して、無料で昇仙峡のライトアップツアーを実施しておりますけれども、何度もこれは甲府市にお願いしておりますけれどもほとんど予算が出ない。甲府市の中の重要な観光地がふたつも協力してやっているにも関わらず、我々が常に銭を出している。こんなレベルの観光に対する甲府市の見解はとっても残念。県も長崎知事になり観光立県とよくやっています。この昇仙峡リバイバルプランをきっかけに甲府市は変わってほしい。僕はとても良いプランだと思いますが、予算措置をしっかりと、きちっとした形に出してこそ、我々も時間を費やしているわけなので、ぜひ実行していただきたい。

#### 【委員長】

事業を行うというときには組織と人材と資金。事業を続けていくには不可欠だと思います。アイデアがあってもなかなか実行に移さないでは、まさに絵に描いた餅なので、組織作り、人材の確保、人材育成を含めてぜひプランに魂を入れていただきたいと思います。それでは本日の議事はこれにて終了いたします。続いて、事務局よりお願いします。

**【事務局】**

本日お示しさせていただきました素案につきまして、委員やアドバイザー、オブザーバーの皆様  
の意見を反映させていただくために「昇仙峡リバイバルプラン(素案)に対する意見」についての  
記入用紙を配布させていただきましたので、ご意見等ありましたら、今週末21日金曜日までに提  
出をお願いいたします。

また、第4回の会議でございますが、来月の3月4日(水)15時30分から、今日と同じ会場での開  
催を予定しております。次回は、本日の議論を踏まえ、リバイバルプランの最終案をご提示させ  
ていただく予定です。事務局からの事務連絡は以上です。

**【委員長】**

それでは次回もよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

**【事務局】**

委員長ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましては、貴重なご意見を賜り、誠に  
ありがとうございました。

以上をもちまして、「第3回 昇仙峡リバイバル会議」を終了させていただきます。

ありがとうございました。